

全国高校生第1回手話パフォーマンス甲子園予選審査実施要領

1 日時

平成26年10月18日(土) 午前9時～

2 場所

鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館5階 小研修室(映写室)

3 審査員(◎印は審査員長)

◎庄崎隆志氏(office風の器主宰・演出家・俳優、ろう者)

下垣彰則氏(鳥取県聴覚障害者協会文化部長、ろう者)

西岡恵子氏(ソプラノ歌手・わらべ館童謡唱歌推進員、聴こえる人)

中永廣樹氏(鳥取県文化振興財団理事長、聴こえる人)

4 審査方法

応募が20チームを超えた場合、5の採点方法に基づき、各審査員が応募チームから提出された動画(3分以内に編集したもの)を審査、採点し、その合計得点を各応募チームの審査得点とし、6の本戦出場チーム選出方法により本戦出場チームを決定する。なお、審査得点が同点となり、本戦出場チームが得点では決められない場合は、審査員間で協議の上、最終的に審査員長が決定する。

5 採点方法

(1) 次の審査表による審査項目を各審査員が担当項目別に採点する。

審査員	手話の正確性・ 分かりやすさ	手話表現の創造性・ 表現力	総合的な表現力・ パフォーマンス度	合計
庄崎審査員	(30点満点)	(30点満点)		(60点満点)
下垣審査員	(30点満点)	(30点満点)		(60点満点)
西岡審査員			(40点満点)	(40点満点)
中永審査員			(40点満点)	(40点満点)
合計	(60点満点)	(60点満点)	(80点満点)	(200点満点)

(2) 各審査項目の採点の目安は次のとおりとする。

ア 手話の正確性・分かりやすさ

採点	評価
26～30点	正確かつ分かりやすく、表現したい内容がしっかりと伝わってくる。
21～25点	パフォーマンスのスピード感や間の兼ね合いから、やや分かりづらい部分があるが、手話自体は正確であり、全体として内容はよく理解できる。
16～20点	ところどころ不正確であるが、全体として内容は理解できる。
15点以下	不正確な部分が多く、内容が理解できない。

イ 手話表現の創造性・表現力

採点	評価
26～30点	機知に富んだ手話表現、手話によるアピール力、視覚的に観客を魅了する表現力、舞台上での存在感が認められ、構成や演出も全体を通じてよくまとまっている。
21～25点	機知に富んだ手話表現、趣向を凝らした視覚的表現、一体感のある表現は認められるが、アピール力や存在感が劣る。構成や演出は全体を通じてある程度まとまっている。

16～20点	手話の正確性に注意を払いすぎ、全体的な演出に悪影響を与えているが、一定の表現力は認められる。
15点以下	創造的な表現、一体感のある表現がなく、構成や演出もまとまっていない。

ウ 総合的な表現力・パフォーマンス度

採点	評価
36～40点	観客を魅了する表現力、舞台上でのアピール力、存在感が認められ、構成や演出も全体を通じてよくまとまっている。
31～35点	趣向を凝らした表現、一体感のある表現は認められるが、アピール力や存在感が劣る。構成や演出は全体を通じてまとまっている。
26～30点	趣向を凝らした表現、一体感のある表現は認められるが、アピール力や存在感が劣る。構成や演出はまとまりが不十分。
21～25点	趣向を凝らした表現、一体感のある表現が認められない。構成や演出はある程度まとまっているが、アピール力を欠く。
20点以下	趣向を凝らした表現、一体感のある表現がなく、構成や演出もまとまりを欠く。

(3) 応募作品の内容が開催要項等に違反する場合及び提出物に不備がある場合（再提出により修正された場合を除く。）は、次により失格または減点とする。

ア 差別的表現、わいせつ表現、特定の個人・団体の誹謗中傷、その他公序良俗に反する内容が含まれる場合 失格

イ 第三者の権利を侵害する内容が含まれる場合 失格

ウ 漫才及びコントの台本がオリジナルではない場合 失格

エ 演技時間（8分以内）の超過 審査得点から10点減点

オ 舞台装置（楽器や簡単な小道具を除く。）の使用、背景等の設置 審査得点から10点減点

カ 演技スペース（幅12.8m、奥行5.25m）の明らかな超過 審査得点から10点減点

キ 提出物の不備 審査得点から10点減点

6 本戦出場チーム選出方法

① 地方ブロック枠（6チーム）

応募チームを所在地別に6つの地方ブロック（北海道・東北、関東、中部、近畿、中四国、九州）に振り分け、各ブロックで審査得点が1位であったチームを本戦出場チームに選出する。なお、応募のなかったブロックがあった場合は、当該出場枠を②の得点順枠に追加するものとする。

② 得点順枠（7チーム）

地方ブロック枠選出チームを除き、審査得点が上位の7チームを本戦出場チームに選出する。

③ 開催地枠（2チーム）

地方ブロック枠及び得点順枠の選出チームを除き、鳥取県内の応募チームで審査得点が上位の2チームを本戦出場チームに選出する。

④ 特別枠（5チーム）

手話の普及に関する条例を制定した自治体及び手話の普及に関心の高い自治体が推薦するチーム（5自治体からの5チーム）については、予選審査を経ることなく本戦出場チームとする。なお、特別枠によるチームは採点を行わないため、①地方ブロック枠及び②得点順枠の対象外とする。

7 結果通知及び公表

(1) 特別枠を除く応募チームに対し、予選審査結果（予選通過又は落選）、5の採点方法による採点結果（審査員名は非公開）及び審査員評を送付する。

(2) 大会ホームページでは、本戦出場チーム一覧（応募で提出された集合写真を含む）及び特別枠を除く応募チームの最終得点一覧（チーム名は本戦出場チームのみ公開）を公表する。